

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る東海経済 (2025年12月)

2025年12月22日
調査部 主任研究員
塚田裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 東海経済は、足踏み状態となっている
- 10月の生産(東海3県)は3カ月連続で前月比でプラスとなったが、足踏み状態が続いている
- 輸出は総じてみると足踏み状態。先行きは、トランプ関税による海外の景気減速から足踏みが続くと見込まれる
- 設備投資は、非製造業を中心に大幅な伸びが計画されている
- 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。小売販売額は名目で前年比プラスが続いており、10月は実質でも14カ月ぶりにプラスとなった
- 9月の賃金(愛知)は、名目では前年比プラスが続いており、実質では10カ月ぶりにプラスとなった

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている
輸出	足踏み状態となっている
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている

注: ()内は前月からの変化の方向

個人消費は「横ばい圏で推移している」から上方修正(↑)

生産

10月の鉱工業生産(東海3県)は前月比+5.6%と3ヵ月連続で増加したが、足踏み状態となっている。輸送機械の伸びが大きかったが、ここから水準を上げていくという状況ではない模様。先行きについては、トランプ関税による下押し圧力により足踏みが続くと見込まれる。

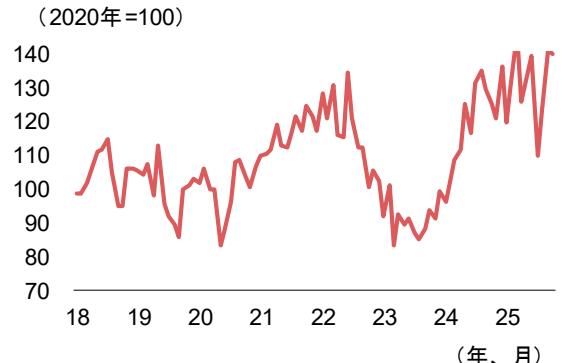
鉱工業生産指数



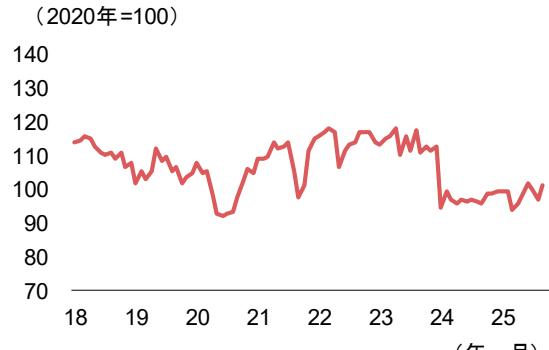
輸送機械



電子部品・デバイス



電気機械



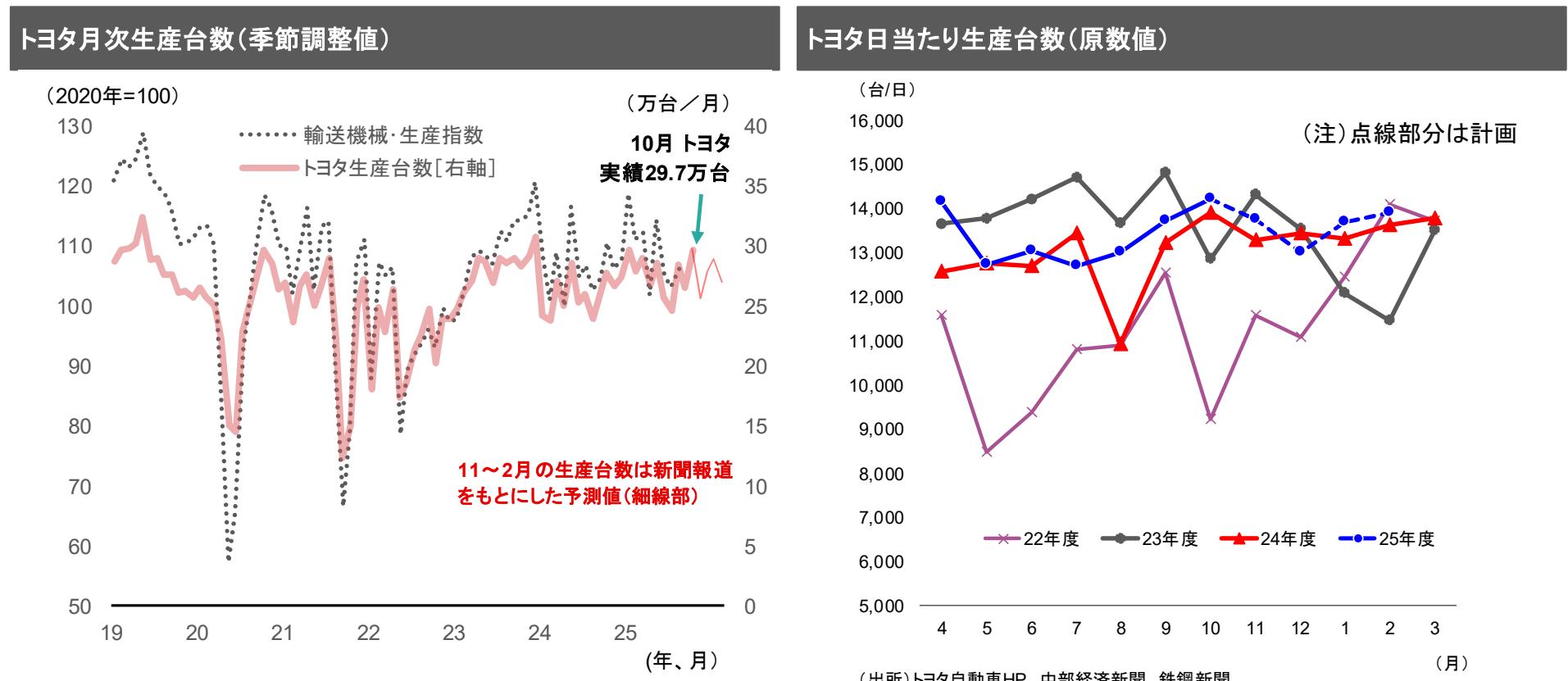
汎用・生産用・業務用機械



(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

生産（トヨタ国内生産）

10月のトヨタ生産台数(弊社季節調整値)は、29.7万台と2カ月ぶりに増加。日当たり生産台数(原数值)は増加した。先行きについて日当たり生産台数の計画をみると、新型モデルへの切り替えの影響から年末に向けて水準を下げる、年明けから台数を増やす計画となっている。



(注)トヨタ生産台数の季節調整はMURC試算、輸送機械・生産指數は東海3県のもの

(出所)中部経済新聞、鉄鋼新聞、中部経済産業局「鉱工業生産指數」

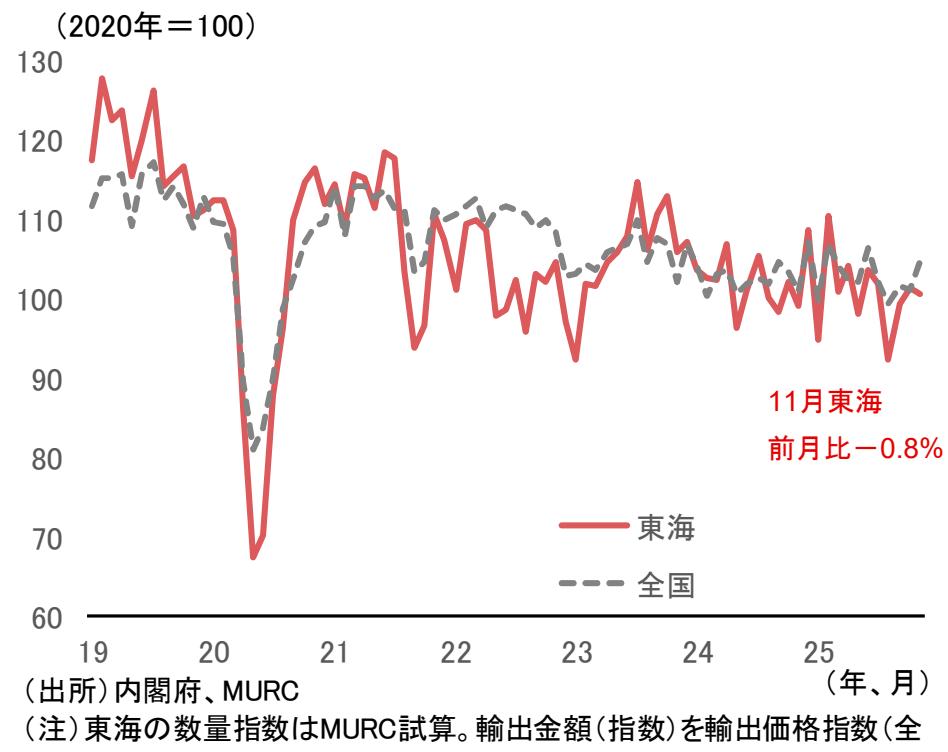
輸出

10月の実質輸出指数(季節調整値)は、前月比-3.9%と2カ月ぶりに低下した。当社試算による11月の輸出数量指数(季節調整値)は、同一-0.8%と3カ月ぶりに低下した。東海の輸出は、総じてみると足踏み状態となっている。先行きについては、トランプ関税による海外の景気減速から足踏みが続くと見込まれる。

実質輸出指数(季節調整値)



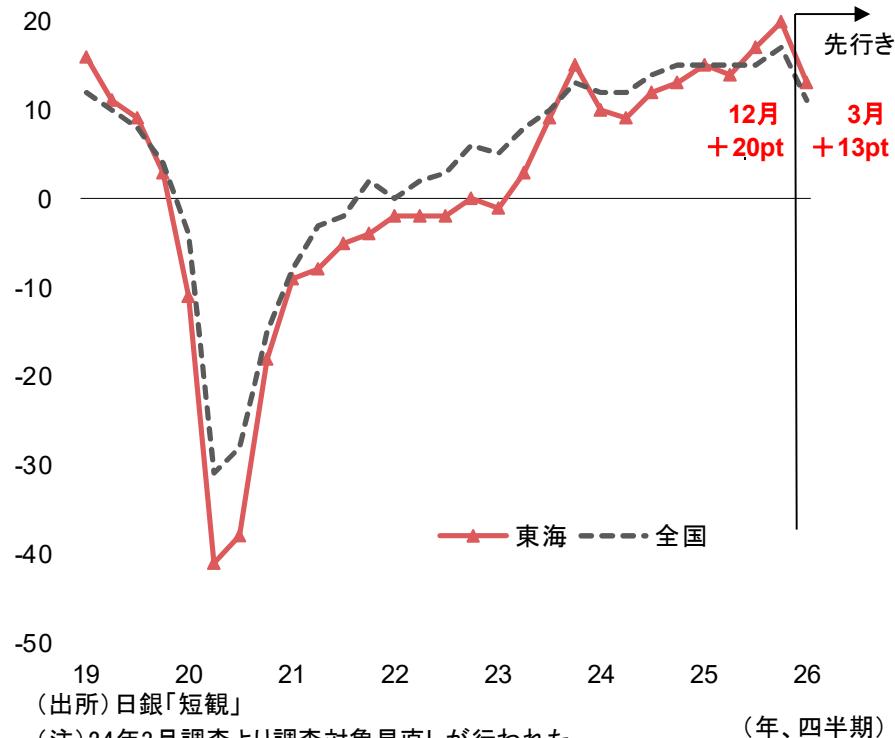
輸出数量指数(季節調整値)



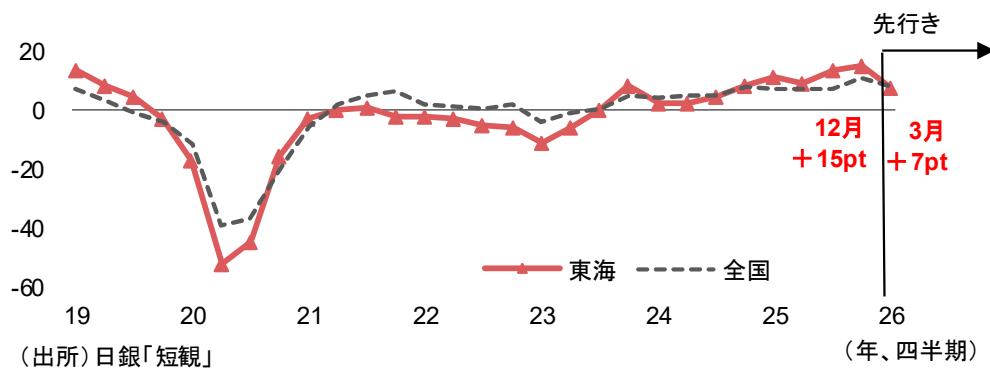
企業景況感(日銀短観)

日銀短観12月調査の業況判断DIは、全産業で+20ptと9月調査(+17pt)から改善した。非製造業では物品賃貸、宿泊・飲食サービスなどが改善し、製造業では非鉄金属、電気機械、自動車などが改善した。先行き(3月)については、製造業、非製造業とも悪化が見込まれている。

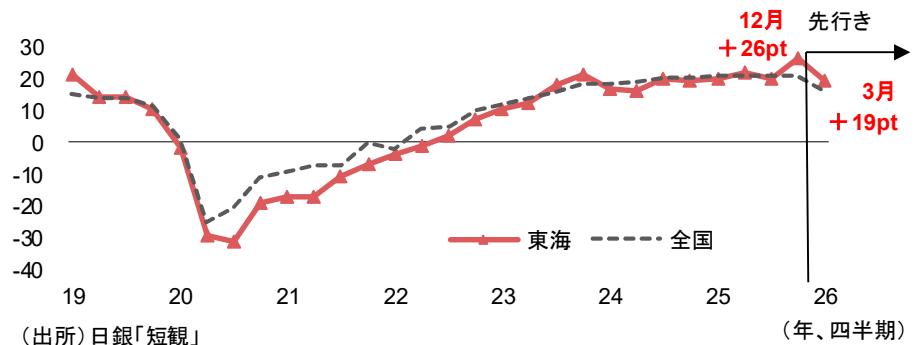
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

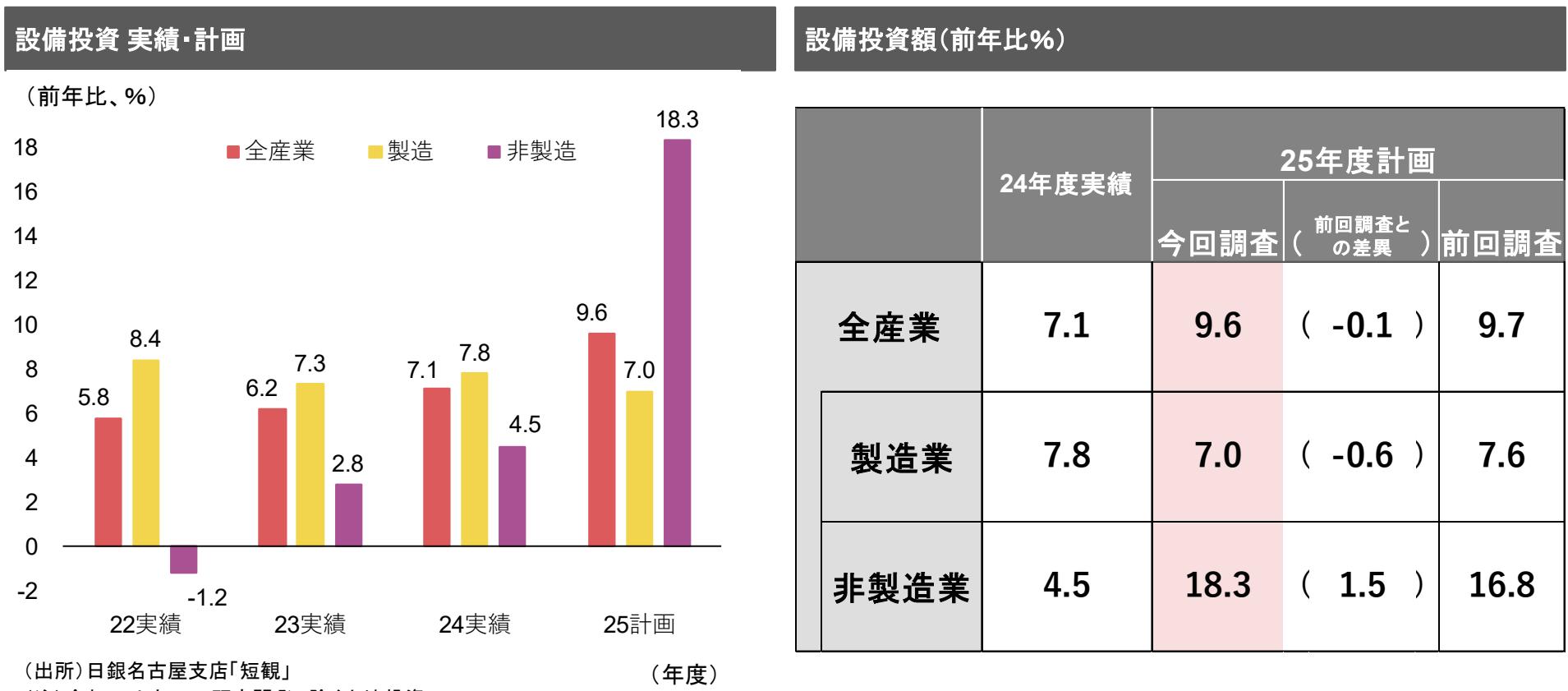


同 非製造業



設備投資(日銀短観)

日銀短観12月調査によると、25年度の設備投資は全産業で前年比+9.6%と計画されており企業の設備投資意欲は引き続き強い。業種別では、窯業・土石、非鉄金属、生産用機械、建設、不動産、運輸・郵便などが大幅な投資増を計画している。



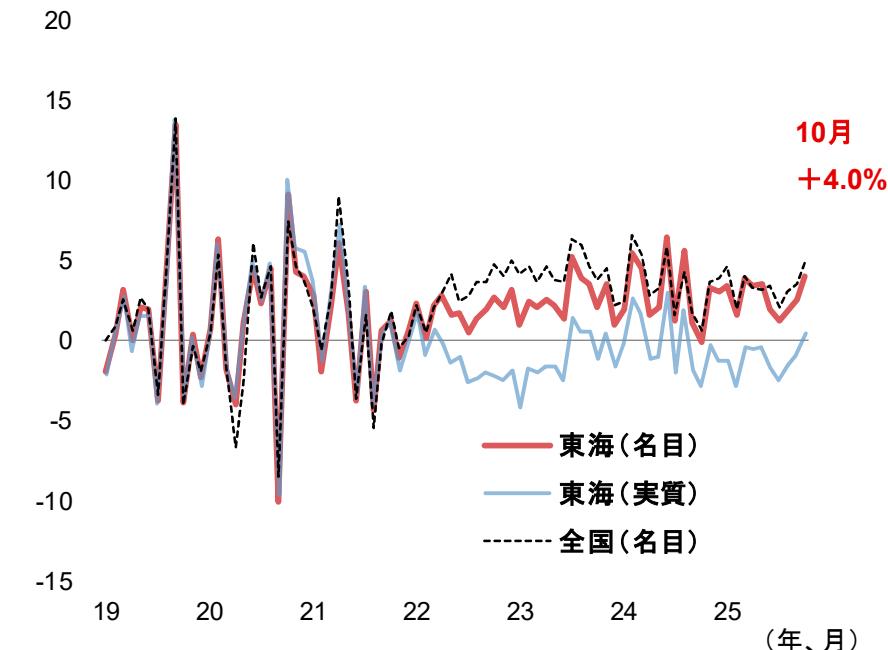
個人消費(小売売上、自動車販売)

10月の小売販売額(名目)は前年比+4.0%と12ヶ月連続でプラスとなった。実質値を試算すると、前年比+0.4%と14ヶ月ぶりにプラスとなった。

10月の新車販売は、前年比-2.1%と4ヶ月連続で減少。軽自動車は増加したが、普通車、小型車が減少した。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

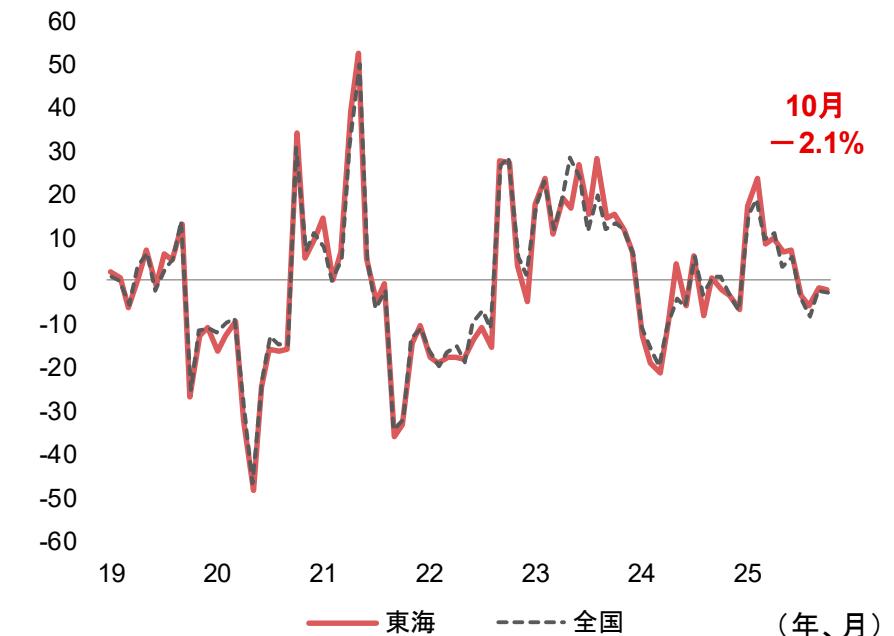


(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(東海)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)



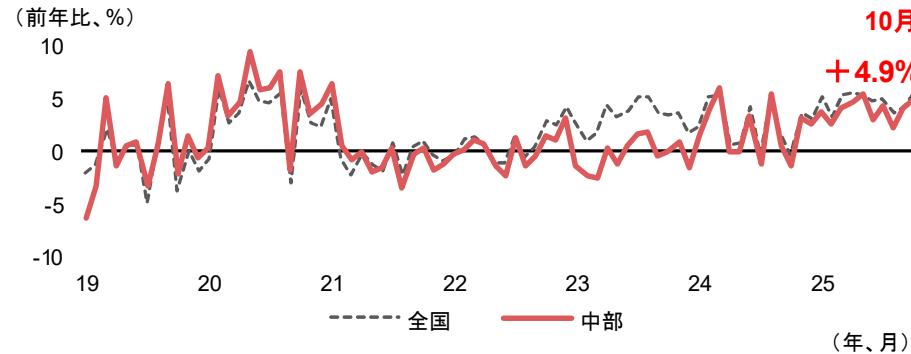
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

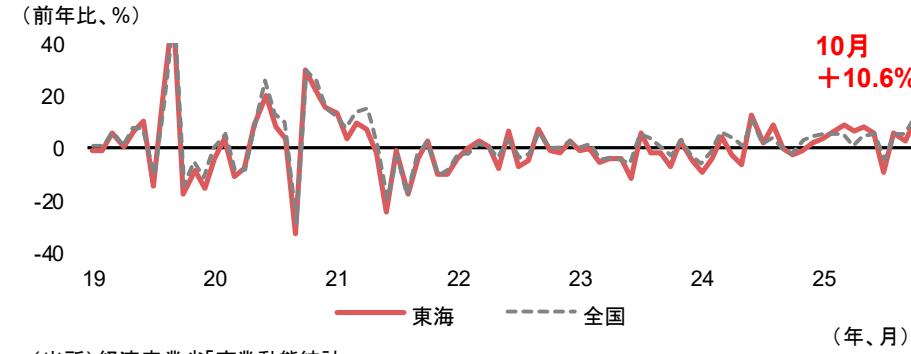
個人消費(業態別)

10月の業態別小売販売(名目)をみると、スーパー(中部5県)は前年比+4.9%と12カ月連続で増加した。10月の百貨店売上(名古屋)は、前年比+8.2%と3カ月連続で増加した。気温の低下により冬物衣料が好調に推移した。

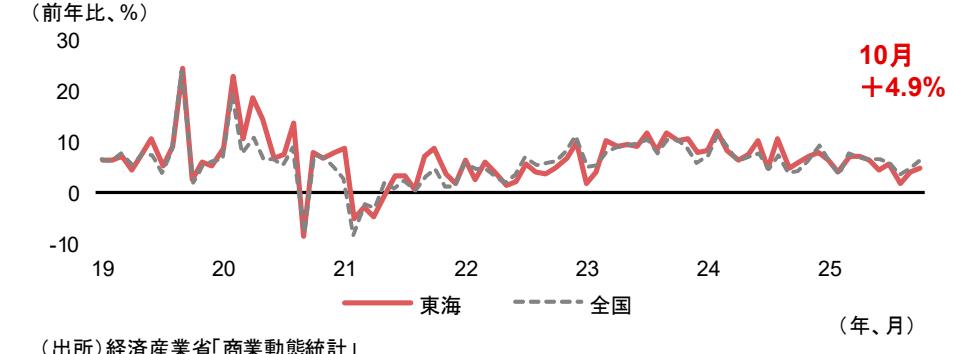
スーパー販売額



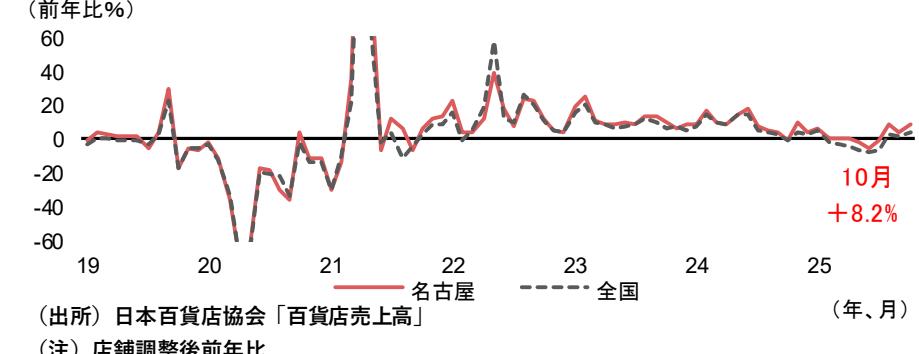
家電大型販売店販売額



ドラッグストア販売額



百貨店売上高

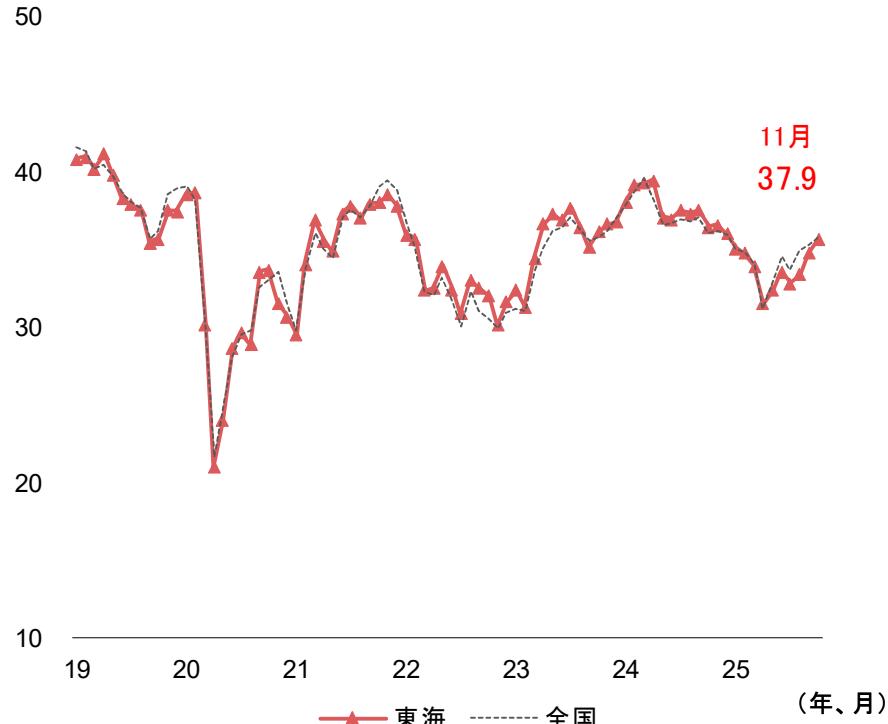


マインド・景況感

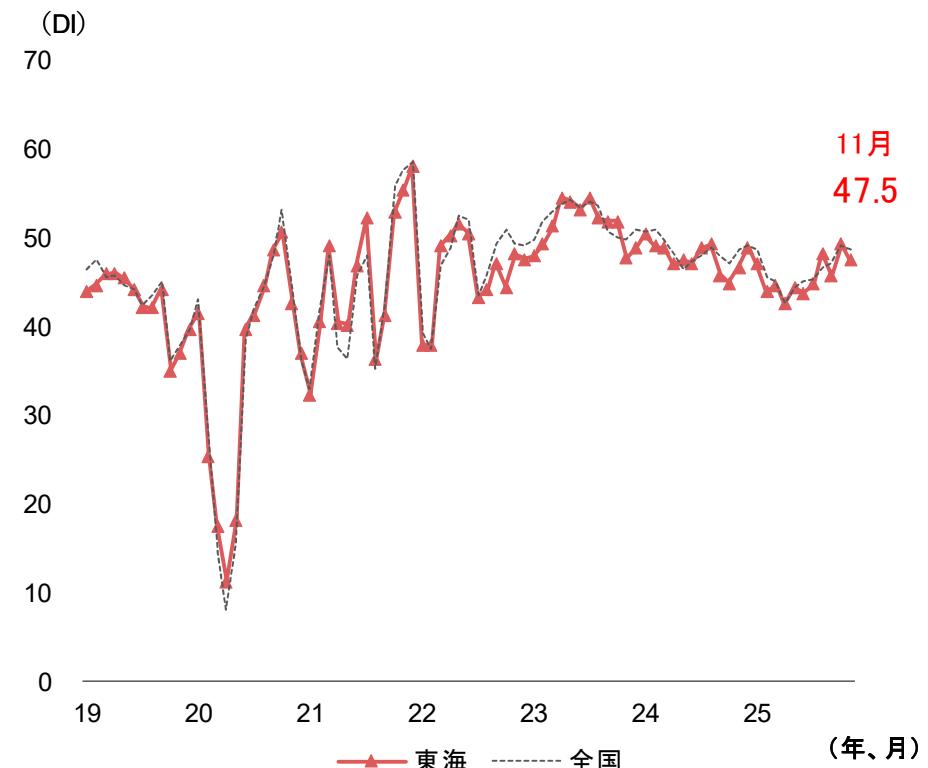
11月の消費者態度指数は、37.9と4カ月連続で上昇した。

11月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差-1.8ポイントの47.5となり、横ばいを示す50を22カ月連続で下回った。来客数、販売量の減少を指摘する声が散見される。

消費者態度指数



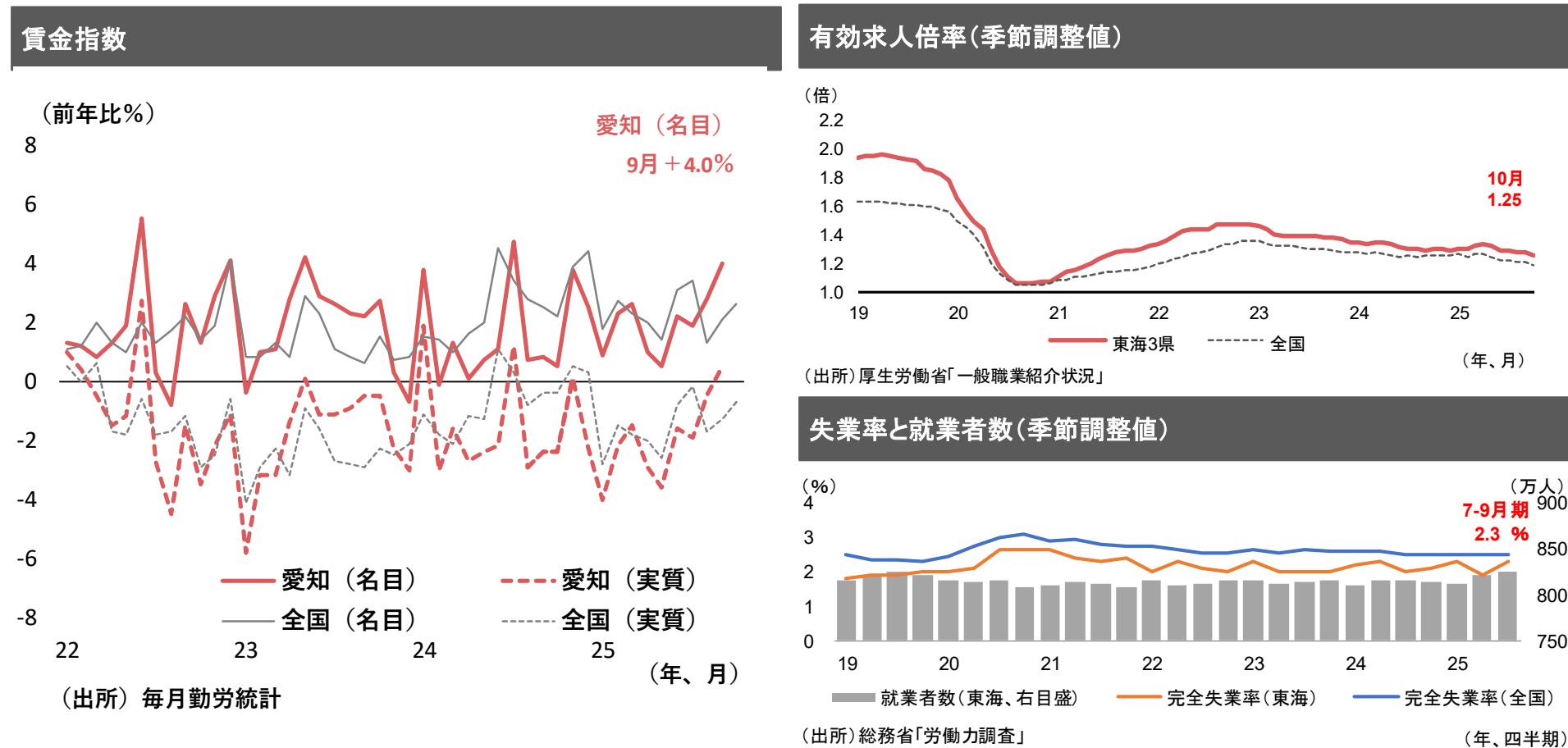
景気ウォッチャー調査(現状判断)



(注)東海の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

賃金・雇用

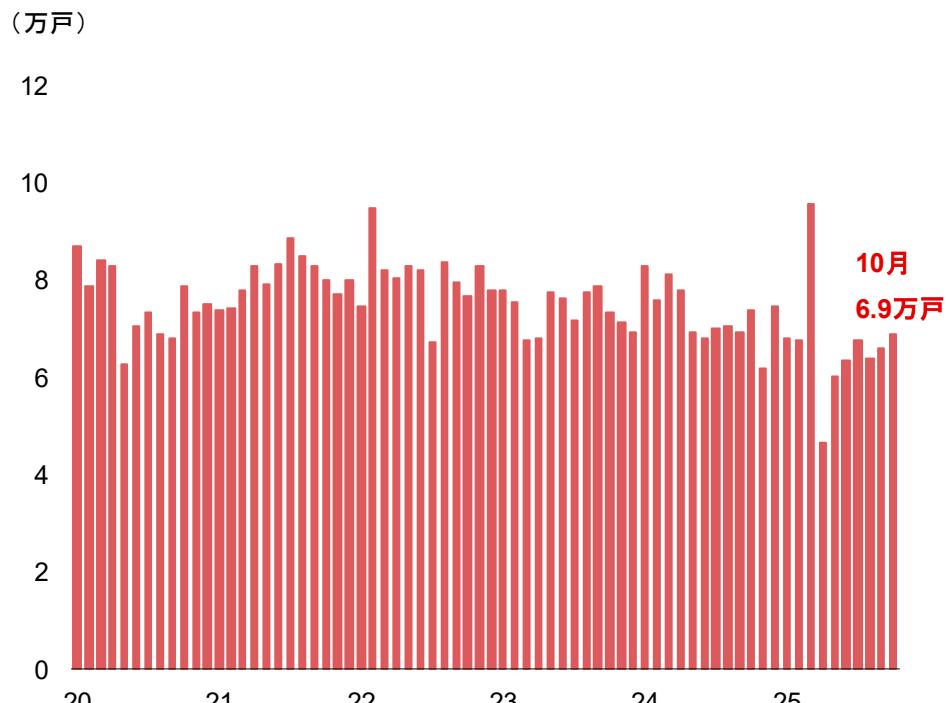
9月の愛知県の名目賃金は前年比+4.0%と増加。実質では同+0.5%と10ヶ月ぶりに増加した。
10月の東海3県の有効求人倍率は1.25と前月とほぼ同水準。このところ横ばいで推移している。
25年7-9月期の失業率は2.3%と上昇したが、就業者数は前期比で増加した。



住宅投資

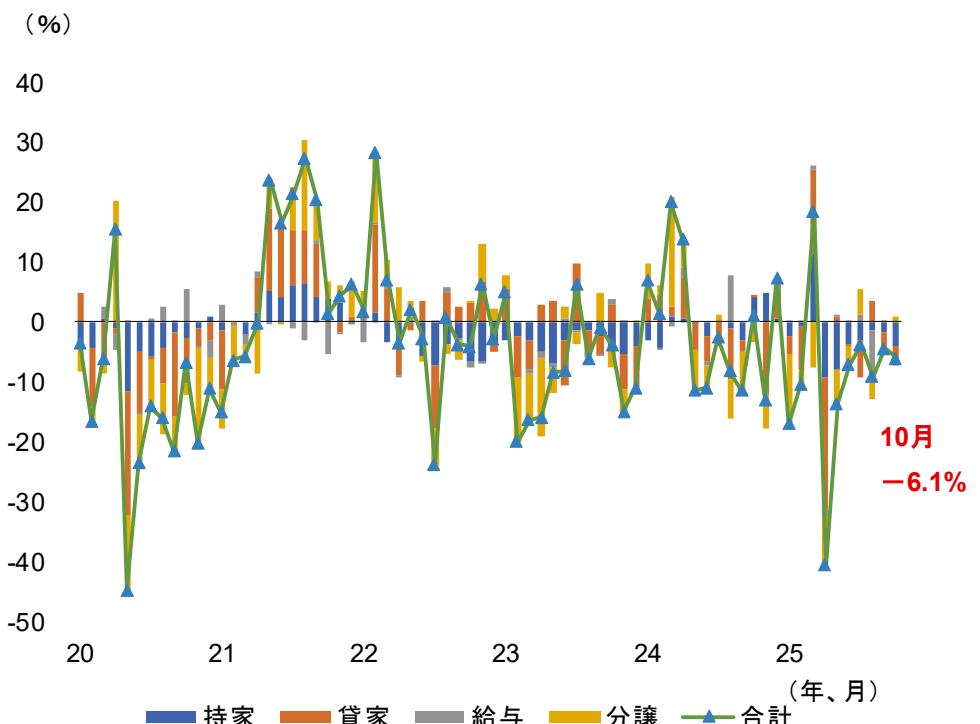
10月の住宅着工は、季節調整済年率換算で6.9万戸と2ヶ月連続で増加、3月に省エネ基準への適合義務化等を前に全国で駆け込みが生じたことの反動減はおおむね解消したとみられる。前年比では-6.1%と減少が続いている。先行きは、横ばい圏での推移が見込まれる。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注)季調値はMURC試算値
(出所)国土交通省「建築着工統計」

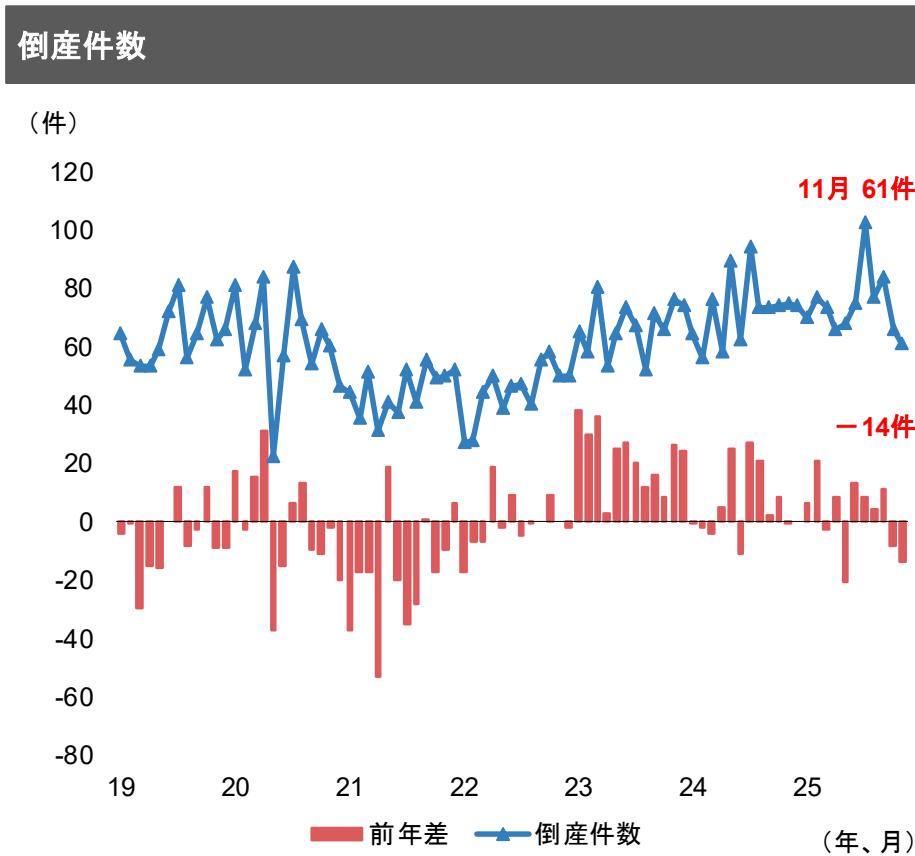
新設住宅着工戸数(前年比)



(出所)国土交通省「建築着工統計」

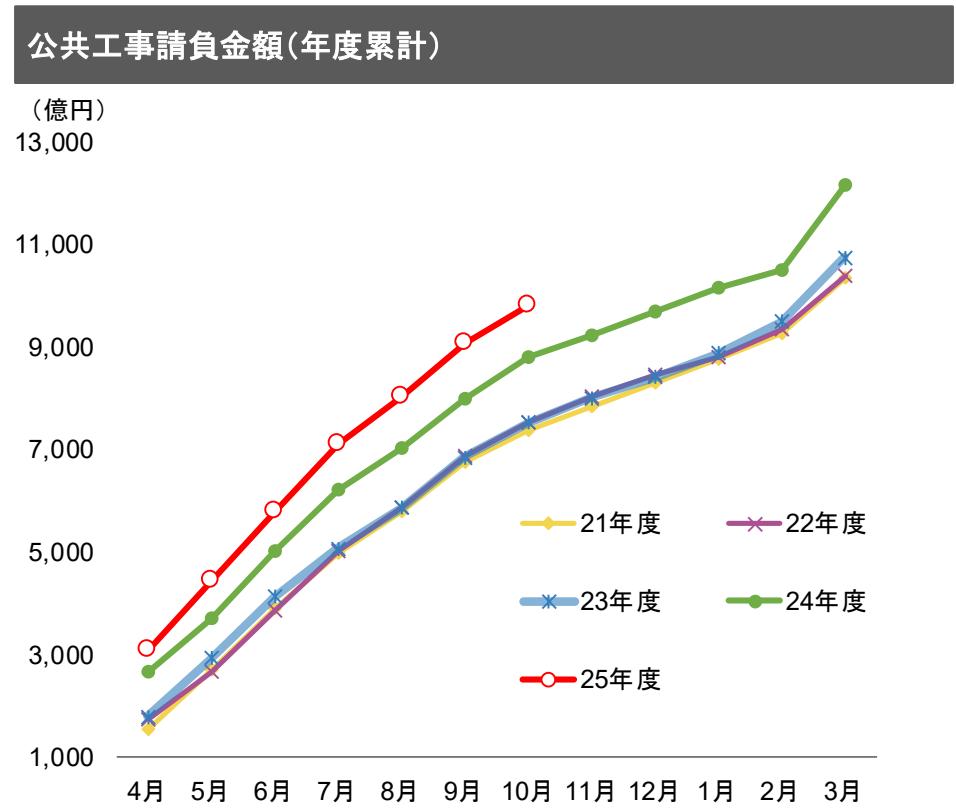
倒産

11月の倒産件数は61件と前年から14件減少。おおむねコロナ前程度の水準で推移している。



公共投資

10月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+11.4%の9,808億円と、例年に比べ高めの水準となっている。



(出所)東京商エリサーチ「全国企業倒産状況」

(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー